

令和7年度 家庭科 3年 年間指導計画・評価計画

< 1 > 教科の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を各学年・各分野において育成することを目指す。

< 2 > 各学年・各分野の目標

1. 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

2. 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。

3. 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

< 3 > 評価の観点及びその趣旨

知識及び技能	生活の自立に必要な家族・家庭・衣食住、消費や環境などについての基礎的な理解と、それらに関わる技能を身につけている。
思考・判断・表現	家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、これからの生活を展望して課題を解決する力をつけている。
主体的に学習に取り組む態度	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を身につけている。

< 4 > 観点別評価の評価基準と評定

観点別 評価基準	A	十分に満足できる状況である。(80%以上)
	B	おおむね満足できる状況である。(50%以上)
	C	努力を要する状況である。(50%未満)

評 定	5	十分に満足できる状況であるもののうちで、特に程度の高いもの。(90%以上)
	4	十分満足できる状況である。(80%以上)
	3	おおむね満足できる状況である。(50%以上)
	2	努力を要する状況である。(50%未満)
	1	一層努力を要する状況である。(20%未満)

< 5 > 指導上の配慮事項

- ①実践的、体験的な学習や問題解決的な学習活動の設定
- ②言語活動の充実
- ③ICT 機器の活用
- ④個に応じた指導

章	学習内容	時	主な学習活動	評価の観点		
				知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 章 家族・家庭や地域とのかかわり	1 家族の一員としてできることを考えよう	1	・家族・家庭の基本的な働きを確認し、教科書 p15 の「自分にとって家族・家庭とはどのような存在か考えてみよう」を個人でやってグループで話し合う。 ・家庭の仕事と家庭生活を支える施設やサービス・活動を確認し、家族の一員としての協力や分担をまとめる。 ・男女協同参画社会について調べる。	・家族・家庭の基本的な機能について理解している。 ・家族や地域の人々と協力・協働して家庭生活を営む必要があることに気付いている。	・家族関係をよりよくする方法について問題を見いだして課題を設定している。	・家族関係をよりよくする方法について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。
	2 家族関係をよりよくする方法をみつけよう	1	・家族の関係図をもとに、家族の立場や役割を理解し、家族のかかわりとコミュニケーションの重要性や道具の工夫について確認する。 ・家族のかかわりを維持するための「あいさつ」「お礼」などの仕方について、グループで話し合う。 ・グループにわかれて、コミュニケーション技術（教科書 p20 ）やロールプレイング（教科書 p22～23 ）をやってみて、意見・感想を発表する。 ・家族関係をよりよくする方法について、問題を発見し、課題を設定し、計画、評価、改善し、次の課題へとつなげる。	・家族の互いの立場や役割について理解している。 ・協力することによって家族関係がよりよくできることについて理解している。	・家族関係をよりよくする方法について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・家族関係をよりよくする方法について、課題の解決に主体的に取り組む、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善し、工夫し創造し、実践しようとしている。
	3 家庭生活と地域のかかわりを知ろう	1	・家庭（家族）と地域のつながりを図にする。 ・暮らしやすい地域にするために、中学生にもできることを考え、グループで意見交換する。 ・家庭生活は地域とのつながりで成り立っていることを理解する。	・家庭生活は地域とのかかわりで成り立っていることを理解している。		

	4 地域の人々と，協力・協働しよう		・高齢者の身体の特徴を理解するために疑似体験をし，理解を深める。 ・地域の一員としてできることを発表し，評価・改善して，もっとやってみたい課題を見つける。	・高齢者など地域の人々と協働する必要があることを理解している。 ・介護など高齢者とのかかわり方について理解している。	・高齢者や地域の人々とのかかわりについて問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・高齢者など地域の人々とのかかわりについて，課題の解決に主体的に取り組んだり，振り返って改善したりして，生活を工夫し創造し，実践しようとしている。
2 章 幼児の生活と家族	「幼児の生活と家族」のガイダンス 1 幼児の体の発達を知ろう 2 幼児の心の発達を知ろう 3 幼児の生活習慣の身につけ方を知ろう	1 1 1	・成長をふり返り，「幼児の生活と家族」の単元の見通しをもつ。 ・幼児の体の発達の特徴，運動機能の発達，発達の順序と個人差を知る。 ・幼児の心の発達として「言葉」「情緒」「社会性」「もののとらえ方」の特徴を知る。 ・グループで，教科書 p41 の「考えてみよう」について意見交換する。 ・教科書 p42・43 で，幼児の 1・6 歳ごろの体と心の発達をまとめる。 ・自分の幼児のころの生活習慣について家族や身近な人に聞いてみたことを発表する。 ・基本的生活習慣と社会的生活習慣のことを確認する。 ・教科書 p44～45 の表を使って 1～6 歳の生活習慣を身に付ける過程をまとめる。	・幼児の体の発達の特徴について理解している。 ・幼児の心の発達の特徴について理解している。 ・幼児の発達と生活の特徴について理解している。 ・子供が育つ環境としての家族の役割について理解している。	・幼児との関わり方について問題を見いだして課題を設定している。 ・幼児とのよりよいかわり方について，課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 ・幼児とのよりよいかわり方について，課題の解決に主体的に取り組もうとしている。	・幼児とのよりよいかわり方について，課題の解決に主体的に取り組もうとしている。

4 幼児の生活の特徴を知ろう	4	・教科書 p46～47 の図を使って、p46 の「話し合ってみよう」を行う。 ・幼児と中学生（自分たち）の1日の過ごし方を比べてグループで意見交換し、発表する。 ・幼児の生活を「遊び」「睡眠」「食事」に分けて理解する。 ・教科書 p49～50 の幼児のおやつをつくる。	・幼児の発達と生活の特徴について理解している。	・幼児とのよりよいかかわり方について考え、工夫している。	・幼児とのよりよいかかわり方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりしようとしている。
5 幼児の遊びと発達のかかわりを知ろう	4	・幼児の遊びの特徴を写真を見て確認する。 ・教科書 p50 の「発表してみよう」を家族や身近な人に聞いたり思い出したりしながら考え、発表する。 ・幼児の体・心の発達と遊びの発達がどのように関連しているのか、グループで意見交換し、クラスで発表し、共有する。 ・遊び道具にはどんなものがあるのか考え、教科書 p54 の「考えてみよう」について、発表し合う。 ・おもちゃを制作する。 ・伝承遊びの種類を知る。 ・遊びを支える環境を整えることが大切であることを理解する。	・幼児にとっての遊びの意義について理解している ・幼児とのかかわり方について理解している。	・幼児とのよりよいかかわり方について考え、工夫している。	・幼児とのよりよいかかわり方について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。
6 幼児の発達を支える大人の役割を考えよう	1	・幼児と家族とのかかわりや地域の人々とのかかわりが大切だということを理解する。 ・教科書 p56 の「発表してみよう」をグループ内で発表し合う。	・子供が育つ環境としての家族の役割について理解している	・幼児とのかかわり方について、実践を評価したり、改善したりしている。	・幼児とのよりよいかかわり方について、工夫し創造し、実践しようとしている。
7 幼児とふれ合ってみよう	3	・幼児とのふれ合い実習のためにやってくることを教科書 p58～59 の図 11 や図 12 を見ながら、グループで話し合い、クラスで発表する。 ・観察やふれ合いのための観点やコツを、教科書 p60 の「観察してみよう」	・幼児とのかかわり方について理解していると、ともに、適切にできる。	・幼児とのよりよいかかわり方について、課題解決に向けた一連の活動について	・幼児とのよりよいかかわり方について、課題の解決に主体的に取り組んだ

		う」や図 13 を参考にしながら考えてみる。 ・ふれ合い実習後のまとめとして、図 14 の①～⑩をまとめる。 ・教科書 p62-63 の写真を見て、さまざまなふれ合いがあることを知る。		て，考察したことを論理的に表現している。	り，振り返って改善したりしようとしている。
--	--	--	--	-----------------------------	------------------------------